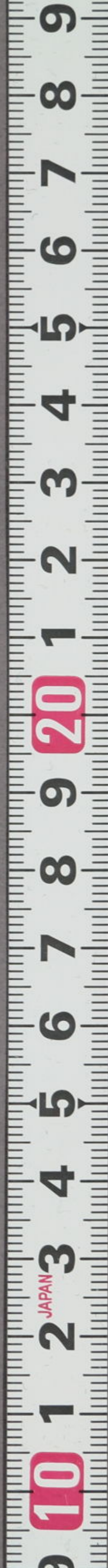


稽古三絶

中

^ 13
3133
2



門 へ 13
3133
號

夫高江をい中身も良家業なりも
ゆふお物と号むと世代いとらむのがら
まゝ〜〜〜美の子時お行らあり志の
まゝら巻中を我に我画案まいゆるいと
ひ〜〜〜に第れ〜

貸本
大野屋龜吉

昭和九年
九月十二日
購本

流 誓 古 三 弦

卷 之 中



江戸 式亭三馬原稿

第二卷目

十露盤の松のあつたての巻
ゆふちまきうちもゆるぬ番のけり

無正別の名護屋節の酒屋の用かニテ妙づく
と大死よか世話よみんぬ〜立カニ野入ゆけハイヨ立
日午と結らぬさたくらとを言ては終る酒子と
くみせる東の氣性ハ諏訪の池と走らんらる

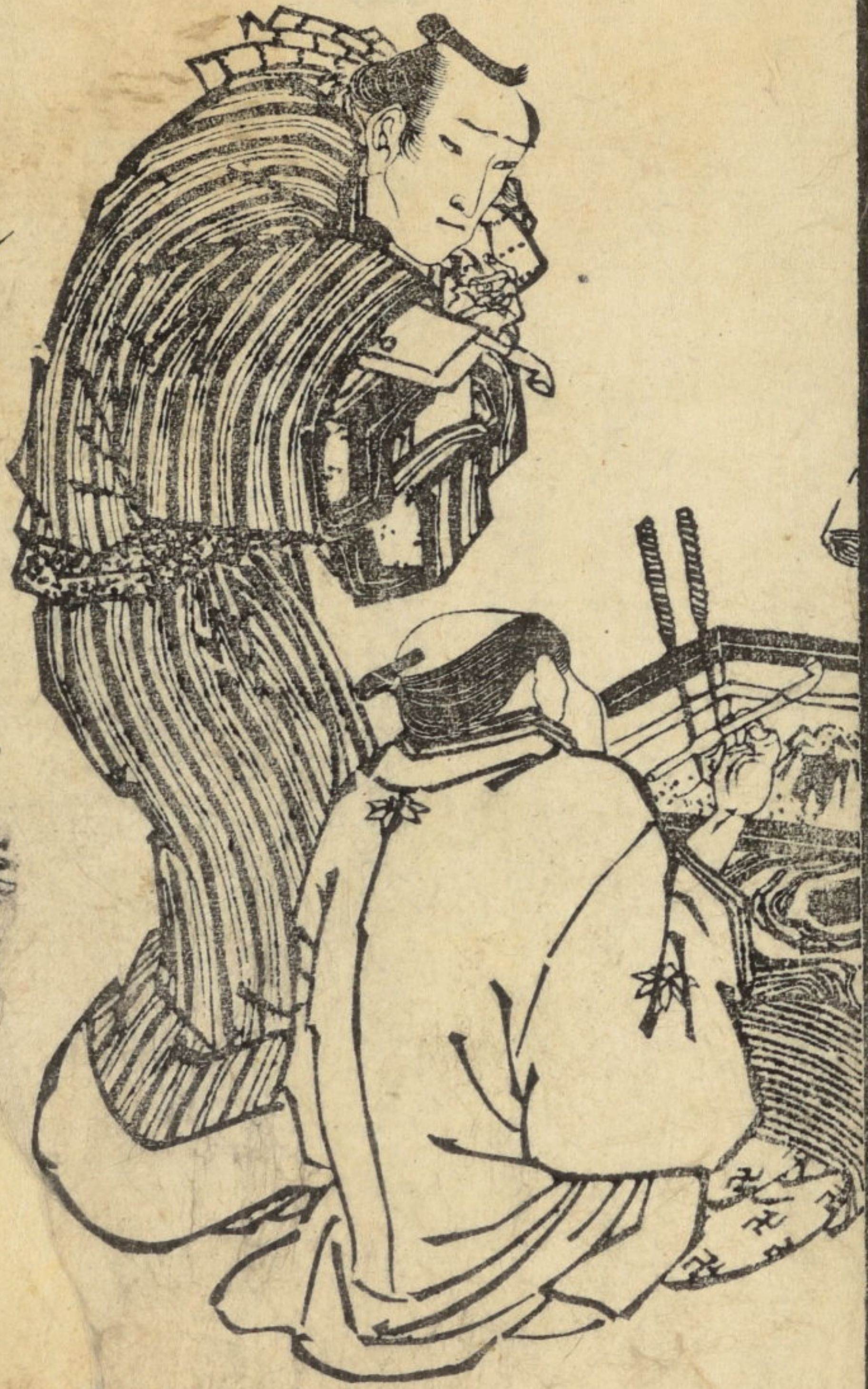
ごとく上へ上へとの鼻の先の氣くらひ。けぞ
 ふ上へ上へ田うら段物でもかきつものめでたき
 維のまねだまのむらさきなどから鼻をかきちら
 か。首とらうと廻一からて見ると所が箸も棒も
 からず。塞ぐのし雪隠のやうに。むせうは咳をらの
 ちでも根がゆるい。まゆ糸一向は網子よのらさ。
 長家中でくそらや始まることしとるるむどよ
 浮名がくそら路次を通る。アノ人ごとくと後ろ

指とらうと鼻とらうとも。おとす。そのくせをいら
 の時ハ人よかきり。ちうぎの左松の連糸と。
 だのうらよちてまのうら。揃とぬ無拍子な
 ちうら高慢の鼻かうらやちう高く声の
 よのオ子よ難くせとけ日かちまるを四ツまを
 毎晩つらきつよするもの。walkin in the rain of
 横子よきうらぐー
 赤らうて幾子の極ひのMust
 赤らうて幾子の極ひのMust
 赤らうて幾子の極ひのMust

かまきり
水調子
不志周
友春



かまきりのまの敷
羽衣松風



胎たとのふゆめのでぢ。あいらいあいらい見み夏なつなるころちやよしの
 夏なつ「マまそふうねエえ江戸えど」ちや初はつ目めや何なにりアあ女よめや何なに
 かアあのままちや老おわ入い子こエえそまま下くだやアあ何なにり子こあつちや
 アあそんんちちふふ初はつ日にちよよ女に郎らうのの藝ぎ者しやののととののが
 子こよよのの子こ。マまくくああつつ子こエえ傳でん「其代だいののよよナナらら」
 ちちのの芝しば居いハハ跡あとかかとといいけけんん「やナナががややらら」
 銀ぎん主しゅららぞぞ六む初はつ日にち二に日にち三さん日にちのの内うちよよととりり上あるるささららのの。
 跡あとハハママががよよびびままよよののよよトトのの理り屈くつササ傳でん「其代だいののよよナナらら」
 そそよよののちちららちち遠ちかふふめめんん子こエえ。ああつつちちららいいののつつて
 能能「そののササ」近ちか頃ころハハああつつちちららででもも常とこ
 終はつ津つががああららののたためめららナナ終はつ「へエエそそふふららイイ」傳でん「戻駕か」
 るる七しちハハ宮みや箇ごででかかつつららがが。イイヤヤとといいととモモウウああんんままのの
 常とこ終はつ海うみののちちううめめハハららひひんん。ささくくししののちちやや終はつ「そ」
 ちちやや何なにりりううねね上あ新しん上あるるのの何なにののととららいい
 めめののアア。ああつつちちららちちああめめ入い子こエえ傳でん「いヤヤららのの呼よぶぶののらら」
 たたののああちちららちちのの太お夫とががららののささららのの。そそれれはは又また

三二 玄中

まきうげん作のころのものがナ。多くのがすけらの
 さうのでころく。豊後ぶーの新物ハてけぬのこ
 の。そまてふハ又ハ當地のころもや。何じやあるうと
 かさうめくく。新めのがでけてたやうさうのあら
 のてナ。そまてもその答うのふ。ころハ作者があら
 のがわるさうの其うちでも。アこまのよるら。ハ
 櫻田治助がのちあくな。ア源太るるてハうまの
 じまやチ。おまアハ。汲もりく子エ。ころちアアノ

かさのから子ノのとまがのひ子エ。傳。一あやもく。色角
 冬後節ハ櫻田左文のころちや。おま。一まりアノ。汝
 汲とひの式佐えも。拵屋の正次郎まもころ
 たうら。今もや。いけは入子エ。傳。一まびサ。アノ。時の
 ころ。有藤間助十郎も故人。ようのあつこ。おま。一ま
 そころ子エ。えんごめの子。そま下や。満つ。坂三津
 と櫻田まりのころころ。つる子エ。アリヤア。まもひひ
 傳。一ころハア。役者。ころの衣袋と拵へるさうのく。

でも少一サカたれ多へのものから。何ウレなる

ら〜アノカキルカラノ子コ

衆ムハノ七シ也ヤ。当ト地チ風フウ

也ヤ。イハ又マ也ヤ。多タらシカシ

ハノ也ヤ。目メガシカシカシカシ

の多タらシ也ヤ。イハ又マ也ヤ。

子コトト也ヤ。今イマ

也ヤ。今イマ

歌ウタ右ミダ三ミ味ミ也ヤ。子コトト也ヤ。

アノ也ヤ。何ナニ也ヤ。

らシカシカシカシカシ

アノ也ヤ。イハ又マ也ヤ。

アノ也ヤ。イハ又マ也ヤ。

らシカシカシカシカシ

アノ也ヤ。イハ又マ也ヤ。

らシカシカシカシカシ

そのうまのちいびろくろね入ヨ傳「イヤ何」やろ
 日一傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 てめ傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
ト「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 角傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 ヨ傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 後傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 角傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」

半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」
 半七傳「いびろくろね」て。きんどの野傳「や」

じりひのヨ。あひうらでむうまに 傳「月待の所」を
 かりくむいせ。いせいせもまらにいひせもまらにいせ
 いせもまらにいせもまらにいせいせいせいせいせ
 いせいせいせいせいせいせいせいせいせいせ
 いせいせいせいせいせいせいせいせいせいせ
 いせいせいせいせいせいせいせいせいせいせ
 いせいせいせいせいせいせいせいせいせいせ
 いせいせいせいせいせいせいせいせいせいせ
 いせいせいせいせいせいせいせいせいせいせ

せいすうまふらアもウ茶のウウウウウウウウ
 りせいのウせぬウ眼いハアアアアアアアア
 ねむらナ 傳「アアアアアアアアアアアアアア
 子傳「アアアアアアアアアアアアアアアアアア
 エヘン〜アアアアアアアアアアアアアアアアア
 がらんむ〜の牛入氣ガアアアアアアアアアア
 かアおアウ〜エのウアアアアアアアアアアアア

花好 梅心

好女 ちん

牛女



文花 十三文

